

新しい戒め ヨハネによる福音書 14:15-21

1. もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。(14:15-16)
 - a. イエスがこの世を去るにあたって強調されているおもなテーマは愛の重要性である。生きた愛の定義は1 コリント 13:4-7に見ることができるが、イエスはただわたしの戒めを守りなさい、とおっしゃっている。
 - b. では、わたしの戒めを守りなさい、とはどういう意味だろうか？ 十戒を完全に守ること？ 聖書の律法をすべて守ること？ それともまったく別のことだろうか？ おそらくまず実行すべきはイエスが先に弟子たちに命じた「互いに愛し合いなさい (13:34-35)」という新しい戒めであろう。
 - c. イエスがおっしゃった意味を頭で理解するだけではなく行動に移すことが大切である。イエスが、ご自身を愛するということはどういうことなのかというだけでなく、もうひとりの助け主（聖霊）を約束してくださったのはそのためである。聖霊なしではイエスの戒めを守ることはできない。エレミヤ書には、神が私たちの心に契約を書き記すという預言がある（エレミヤ 31:33）。
2. その方は真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。(14:17)
 - a. 神によってでなければ神に従うことはできない。どんな状況にも私たちがなすすべがないということではないが、「助け主」なしでは私たちの人生に起きる変化は良いように見えても表面上にすぎない。
 - b. 罪を示されても、ほんの少しの間態度が改まっただけでまたもとの罪に陥ってしまったり、長い期間態度が変わったとしてもその罪が別の形で現れていたり、というような外面的な変化は多くの人が犯す間違いである。
 - c. わたしたちを自由にするのは真理であり真理とは霊的な存在である。イエスがおっしゃる助け主とは聖霊のことである (14:26)。イエスは聖霊とはどのようなお方で、信じる者の生き方にどのように影響するかということをしだいに明らかにされる。
3. わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからです。その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります。(14:18-20)
 - a. イエスが「わたしは戻って来ます」とおっしゃるのは、文字通りイエスが来られることかもしれない。実際イエスと出会い、その機会を逃さないように、と証している人もたくさんいる。しかしここでは聖霊がいらして私たちのうちに内住してくださることを指しているのだろう。
 - b. 聖霊は「もうひとりの助け主」とも呼ばれ、わたしたちを教え、悟し、神の平安を与えてくださる。残念なことにそのお方は目に見えずこの世には知られていない。
 - c. そうしてイエスは肉体的にこの世を去る準備をされ、その後はおもにその霊によってこの世全体にではなく弟子たちの間に知られることになる。この地上でイエスを伝えるのは今や聖霊を内に満たした弟子たちの役目となる。
4. わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。(14:21)
 - a. 私たちがすべてを神にゆだね、聖霊によって心を一新し人生を新たにさせていただくようにすると、私たちは一時的、表面的にではなく、内側から強められ、神の戒めを保ち守ることによって神を愛し続けることができる。
 - b. この神への超自然的な愛の報いとして、神が私たちに対し超自然的な愛をくださる。ちなみに私たちは神の愛を得ることはできないし受けるに値しない。この超自然的な神の愛の応答は、すべての人に対する一般的な神の愛とは異なる、信者だけに対する愛である。
 - c. 神の超自然的な愛の結果とはどんなことだろうか？ その一つは私たちが世に向けてイエスのことをあかすことができるようになることである。